

10 金の砥石

大里玉城村ですか、あつちの出来事なんですけど。貧乏で家庭が貧しいために、金持ちのところに雇われて、そこで日雇い、何をやっていたのがですね、いつも、毎日草刈りの仕事をやらせられておる。山行つて、山で草刈りやっている途中、鎌持つて行つてですね、とにかく、やっぱし変な石を見つけて、この石に鎌を研いでいたというんですね。これ、大里村の船越という部落に。そういうことを聞かれたんじゃないですか。その石がですね、やっぱし後で、そのご主人がですね、

「砥石も持たずにどうしてその鎌は切れるか」といつも草刈りに出たら、一杯ずつ担ぐだけの草を刈つて、毎日ですね。

しまいにですね、

「山にいい砥石があつて、私はこの砥石に草刈りに行つて、鎌を研いでいる」と。そういうお話をしたら、お

かしいなあと思つてこのご主人がですね、いっしょに行つてきたら、やっぱり黄金、金の。だから、この小僧はですね、助けられて相当、この島尻地区の大金満家になつて、そういう何、小僧のおかげでその砥石を家に持つて来てですね。

字名は船越というてゐるんですがね、船越と。屋号はウエゾウとか何とか言うていましたが。今でも相当あるらしいですよ、財産家で。

字新垣 宮里栄吉